

文化・芸術

「神楽坂通 雨後の夜」

1929（昭和4）年、
木版多色摺 紙37・2寸×24・3寸

吉田博（1876～1950年）

吉田博は福岡県久留米市に生まれ、17歳で上京、長らく洋画家として活躍しました。3度目の渡米後、49歳の時に木版画に挑戦します。1925（大正14）年には、新宿下落合に版画スタジオを設立しています。

吉田の木版画は、同じ版木を用いて摺色を替えることで、刻々と変化する水の流れや光の移ろいを表情豊かに浮かびあがらせます。複雑な色彩表現のために摺数は平均三十数回、多いものでは100回近くに及ぶことがあります。

本作は、「東京拾二題」のうち的一点。画題の神楽坂は、明治から昭和初期にかけて花街として栄えました。雨がやみしつとりと艶やかな夜の通りが、店の明かりに照らされています。大気の表現にこだわり抜いた吉田の木版画の魅力がうかがえます。

本作は、7月15日からの特集展示「コレクションによる日本の木版画」で展示します。

（小此木）

《名画の扉》

大川美術館コレクションから

